

# 東京ニューシティ管弦楽団

音楽監督・常任指揮者 内藤 彰  
 コンサートマスター 藤田 めぐみ  
 インスペクター 金岡 秀典 山川 奈緒子  
 アドミニストレイティブディレクター 渡部 中子  
 ライブラリアン 上村 雅英  
 事務局 渡辺 晶子 上澤 あい子 青木 勝弘



社団法人日本クラシック音楽マネジメント協会



(社)企業メセオ協議会認定

## Violins

◎藤田 めぐみ  
 ◎上原 まさみ  
 大津 千代子  
 岡田 邦子  
 小澤 郁子  
 小澤 薫  
 菊池 真理子  
 坂井 みどり  
 櫻井 志保  
 鈴木 順子  
 高階 久美子  
 綱木 郁  
 徳井 えま  
 中川 さと子  
 中澤 真理子  
 中村 朱見  
 蛭川 いづみ  
 萩野 恵美子  
 宮林 陽子  
 山江 洋子  
 山川 奈緒子  
 山本 佳子  
 吉井 孝子

## Violas

◎桜井 多美子  
 安達 いづみ  
 塩路 まもる  
 高瀬 有美  
 竹鼻 江美子  
 平沢 純  
 松田 美奈子  
 光行 澄子

## Violoncellos

◎斎藤 章一  
 青嶋 直樹  
 岡田 一樹  
 加藤 浩樹  
 仙石 由紀子  
 富成 倫子  
 橋本 しのぶ  
 百瀬 郁子  
 山崎 正光

## Double-basses

◎金岡 秀典  
 菅形 祐介  
 徳高 宏行  
 長竿 山紀子  
 那須野 直裕  
 本間 園子

## Flutes

井ノ上 洋  
 内山 豊美  
 名越 篤

## Oboes

徳田 振作  
 池田 祐子

## Clarinets

西尾 郁子  
 黒井 理恵  
 菊地 秀夫

## Bassoons

藤田 旬  
 齋藤 美和子  
 松里 俊明

## Horns

小笠原 一弘  
 岩切 理恵  
 飯島 さゆり  
 阿部 慎一  
 上村 雅英

## Trumpets

中西 清一  
 染谷 始  
 元井 勤  
 小貫 誉

## Trombones

竹田 俊幸  
 田中 宏史  
 榊原 徹

## Tuba

松下 晃一

## Timpani

伊沼 弘能

## Percussion

平子 久江  
 米山 明  
 石澤 学  
 福島 優美

## Harp

平島 さより

## Pianoforte/Celesta

島田 玲子

# Tokyo New City Orchestra

## 東京ニューシティ管弦楽団 第14回定期演奏会

平成11年9月23日(木・祝)午後2時30分開演 北とびあ さくらホール 指揮:内藤 彰 共演:東京合唱協会

東京ニューシティ管弦楽団事務局 〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-31-13 ライオンズマンション東池袋第3-805 TEL:03-5952-7617 FAX:03-5952-7618



## 音楽界のサポーター

より良いコンサートのために……。

アイ・エム・エス ●楽器リース ●保管 ●移動 ●ステージ・スタッフ派遣

〒167-0043 東京都杉並区上荻2-3-4 ゆうでんビル1F PHONE.03-3397-2292 FAX.03-3397-7728  
 URL <http://www.jade.dti.ne.jp/~ims> E-mail [ims@jade.dti.ne.jp](mailto:ims@jade.dti.ne.jp)

## 東京ニューシティ管弦楽団 第13回定期演奏会

1999年3月21日(日)午後2時30分開演 北とびあ さくらホール  
 主催:東京ニューシティ管弦楽団 共催:(財)北区文化振興財団



ブラームス(1833~1897)  
ハイドンの主題による変奏曲 作品56a

# program

## ブラームス

ハイドンの主題による変奏曲  
作品56a

## シューマン

ピアノ協奏曲イ短調 作品54

intermission

## ショスタコーヴィチ

交響曲第5番ニ短調「革命」  
作品47



ブラームスの味わい深い逸品で日曜午後のコンサートの幕が上がります。内藤彰さんと東京ニューシティ管弦楽団は、ブラームス没後100年の1997年3月の第9回定期演奏会でピアノ協奏曲第1番、交響曲第1番を披露し、注目を集めました。

主題の旋律は、オーストリア東部のブルゲンランド地方に伝わる賛美歌の一種「聖アントニーのコラール」だと言われています。ブラームスは、ハイドン(?)の管楽合奏のための「フェルトパルティータ」という作品を耳にし、とくに聖アントニーのコラールを原曲とする第2楽章に魅了されました。そこで、この旋律を使って変奏曲の作曲を思いついたのです。ブラームスは、ベートーヴェン同様、変奏の達人でした。

ブラームスはこの主題にかなりの愛着があり、オーケストラ版と2台ピアノ版をほぼ同時期に書き上げています。これからお聴きいただくオーケストラ版は、1873年11月、ブラームス指揮ウィーン・フィルのシーズン開幕コンサートで初演されました。作品56bを与えられた2台ピアノ版はそれより少し前に完成し、想いを寄せていたクララ・シューマン(シューマン未亡人)と試し弾きしたようです。

賛美歌風のアンダンテの主題以下、緩急を巧みにとり入れた8つの変奏が続き、壮大な終曲で閉じられます。



内藤 彰(指揮)  
Akira Naito

名古屋大学理学部卒業。在学中より指揮を山田一雄氏に師事する。桐朋学園大学研究科(指揮専攻)にて、小澤征爾氏、秋山和慶氏、尾高忠明氏他に師事し、修了後、(社)山形交響楽団の専属指揮者を3年間務める。

これまでに新日本フィル、東フィル、東響、新星日響、シティ・フィル、九響、名フィル他、日本の多くの主要オーケストラを指揮してきた。シンフォニーはもちろん、オペラ・バレエの分野でも、その音楽性とテクニックは聴衆の心からの共感と、共演者の絶大な信頼を得ている。

海外では、1991年旧ユーゴスラヴィアを代表するベオグラードフィルハーモニーを指揮し好評を博した。また、1992年には、モスクワ音楽院大ホールにて、モスクワ交響楽団を指揮し、最初のステージから満員の聴衆の5度のカーテンコールを受け、多くの楽員たちからもロシア音楽の魂を日本人から教えられたと絶賛された。1996年5月には、ロシアの国立ヴァロニシュ歌劇場にて、「セビリアの理髪師」を指揮し、絶大な賞讃を受けた。1997年5月には、ベラルーシ国立歌劇場にて「蝶々夫人」を指揮し、その成功により、今後も同歌劇場から定期的な客演が要請されている。

現在、東京ニューシティ管弦楽団、及び、プロ混声合唱団「東京合唱協会」音楽監督、常任指揮者。日本指揮者協会幹事。

東京ニューシティ管弦楽団  
The Tokyo New City Orchestra

東京ニューシティ管弦楽団は、1990年、音楽監督、常任指揮者に内藤彰を擁し設立された。定期演奏会の他、名曲コンサート、協奏曲・オペラ・バレエの伴奏、レコーディングなど幅広く活躍。

特にオペラの分野では評価が高く、二期会、藤原歌劇団の他、レナター・スコット、アルフレード・クラウス、ヘルマン・ブライ、カーティア・リッチャレリ、マリエッタ・デビア、マリア・キアラ、渡辺葉子等世界で活躍するオペラ歌手との共演も多く、聴衆や批評家のみならず、世界の一流オーケストラと共演している彼らからも、絶讃の言葉を贈られた。

バレエでは、国内のバレエ団の他、英国バーミンガムロイヤルバレエ団、ロシア国立レニングラードバレエ団等海外からのバレエ団の日本公演でも大変高い評価を得ており、今後も内外のバレエ団の公演がめじろ押しである。

また、桂三枝、三枝成彰、ケント・ギルバート、マリ・クリスティヌ等を迎えてのファミリーコンサートも、大変評判が良く、多くの方から親しまれている。

メンバー個人個人の實力はもちろん、それぞれの温かい人間性も共演の指揮者、ソリストから大変高い評価を得ている。また、メンバーによる室内楽の演奏活動も大変盛んで、特に、ニューシティウィンドアンサンブルは福祉施設や医療施設での訪問演奏を行うなど、ボランティア活動にも積極的に取り組んでおり、こうした幅の広い活動が各界より好評をもって迎えられている。

一切の無駄を省いた新しいオーケストラの運営方針もユニークな発展を見せており、近年その活動が各方面から注目されている。さらに、平成8年度より、(社)日本クラシック音楽マネジメント協会に加盟し、東京第10番目のオーケストラとして今後の活躍が益々期待されている。

ウラジーミル・ミシュク(ピアノ)  
Vladimir Mishouk

1989年全ソ国際コンクール 1位  
1990年チャイコフスキー国際コンクール 2位  
1968年サンクトペテルブルグ生まれ。1991年サンクトペテルブルグ音楽院(クラフチェンコ教授門下)卒業後、マドリード音楽院(大学院)パシキーロフ教授、シベリウス音楽院(大学院)クンデ教授に師事。

1993年より母校サンクトペテルブルグ音楽院にて後進の指導鞭を始めるが、昨年、若干30歳にて同音学院のピアノ科主任教授に就任。青少年のためのチャイコフスキーコンクールの審査員を数多く務める傍ら、毎年、パリ、ロンドン、ミラノ、フランクフルト、アムステルダム、ハンブルグなどヨーロッパ各国や米国における演奏会をこなしている。これまで、ロシアをはじめとする、ヨーロッパの主なオーケストラとの共演(ロシア国立交響楽団、キーロフ管弦楽団、ポリシヨイ交響楽団、パリ交響楽団、コンサートヘボ、フランクフルト交響楽団など約60オーケストラ)を果たしてきており、その演奏はしばしばテレビ放送をされてきた。

日本でも1990年にNHKがチャイコフスキーコンクールの模様を放映、また1992年初来日のサントリーホール、東京芸術劇場での演奏会がテレビ放映された。CDもメロディアとBMGから5枚出ている。

・室内楽ミニコンサート(1時50分よりロビーにて)  
リヒャルト・シュトラウス  
管楽器のためのセレナード 変ホ長調 作品7